

キリバス共和国における 再生可能エネルギーの開発・普及

ひろげる助成

3年目

調査研究

協定書の締結

1回

実証と実証後
ディスカッション

3回

今年度計画の達成度

80%

目標達成度

80%

苦勞した点と工夫した点

■ 苦勞した点

ロケットストーブはキリバス共和国内で調達できる材料で、かつ現地で修繕できる形でなければならない。熱効率や利便性に重きを置かないなど価値観に大きな違いがある。

■ 工夫した点

ヤシ殻を炭にして利用することを想定していたが、炭には馴染みがない。住民の提案によりヤシ油抽出後の搾りかす「コブラミール」を使った固形燃料を実証に取り入れた。



高校生と一緒に大型ロケットストーブを作成

課 題

キリバスでは煮炊きに灯油を燃料として使用している。地球温暖化の影響を最初に受ける国だが対策が進んでおらず、化石燃料依存の社会からの脱却が課題となっていた。

目 標

炭やかまど等、日本の技術を応用してキリバスに適應する新しい再生可能エネルギーの循環モデルを確立する。

活動内容と成果

①キリバスロケットストーブの実証

一般家庭用と学校給食用のロケットストーブを現地の協力のもとで設置し、実証実験を行った。実験後には関係者との検証ディスカッションを行い、一般家庭用については地元住民の提案を取り入れた改良型の追加実証を行った。熱効率は向上したが、さらなる技術改善と実証の積み重ねが必要だ。

②MELON とKIRI-CANの協力協定

地球温暖化防止活動推進の連携と協力に関する協定を締結した。キリバス関係省庁の大臣に面会し、本事業について伝えることができた。



家庭用キリバスロケットストーブの実証実験



MELONとKIRI-CANの協定調印式

全助成期間の活動を振り返って

キリバス版ロケットストーブは普段捨てているヤシ殻を燃料として活用でき、かつ構造が簡素であることから住民の関心が高く、実証後のディスカッションでは住民から活発な意見が得られたのが印象的だった。また、キリバス関係者の来日時には地球温暖化防止活動推進センターおよび推進員との意見交換会を催し、学びあいの機会を創出することができた。段階的に関係構築を進め、協定を締結することができた。

活動地域 | 宮城県

〒981-0933 宮城県仙台市青葉区柏木1丁目2-45 5階
<https://www.melon.or.jp/>



今後の
展望

ロケットストーブの試作品を設置したが、完成を目指して引き続き実証と検証を試行する必要がある。キリバス共和国では海水面上昇が原因で地下水に海水が入りこみ、安全な水の確保が難しいなどすでに日常生活への影響が出ている。また、海岸には多くのごみが散乱し、エアコンや車などは国内で処理できないなどごみ問題が大きな課題となっている。エネルギー以外の課題にも目を向けて、引き続き活動への協力を進めたい。